

宿題
について
考えました。

発行者 公認心理師/社会福祉士 堀川 重 敏
ひなたぼっこ心理士

宿 題 の こと

記事内容はわたし個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

ご意見などの宛先 horikawassw@gmail.com

第15巻 第17号



週末の一夜、中学数学の先生と子どもについてお話しする機会がありました。

☆1

放デイの子たちは、入室準備がすむと宿題をします。宿題は「**家庭と連携した学習習慣を確立するため**」に、学校や担任の考えで必要に応じて出されるものです。

そもそも学校の授業は、わたしからみると**学習作業**ではあっても、学習とはちょっと違うと思うのです。

したがって宿題も学習作業の延長であるため、その子が授業を楽しめないと感じていれば、宿題も楽しくないでしょう。

★2

放デイでは宿題として復習プリントを持たされている子がほとんどです。その日教室で練習したことを、その日のうちに家庭で練習させ、定着させるのでしょう。

では、授業が分からない子への宿題はどうでしょう。お母さんに、その子に分かるように教えなさい、あなたが作業を練習させなさいということでしょうか。

おや？ 子どもに知識とスキルを授けることを国民から付託されたのが学校ではなかったでしょうか？

☆3

今の**一斉授業による学習作業**について、社会が多様性を求め、どこで何を学ぶか選択可能となった現代なのに、明治時代と同じやり方をするに、誰も疑問を持たないのでしょうか。

教育を通じて国際競争力を持つ子を育てたいとしながら、子どもたちを画一的、規格統一してはいないのでしょうか。

この矛盾が、不登校増大と関係しているのかも知れませんね。

★4

ジェンダーやハラスメントについて考える社会の流れが、制服や校則の在り方を徐々に変えています。

学制や教育変革の日が、遠からず来るものと期待しながら、子どもたちが宿題をするのを眺めることにします。

もしかすると今の授業も宿題も、大半の子を**勉強嫌い**にする中で、わざと**真の学習する喜びを悟る**子が生まれるように仕組まれたものかも知れませんね。

